

第5回 令和5年度（公財）茨城県教育財団調査成果発表会

## 『茨城の調査遺跡 2023』

- ◆ 日 時：令和6年3月24日（日）  
9時00分～11時30分（予定）
- ◆ 会 場：茨城県立歴史館 1階・講堂
- ◆ 内 容：調査（発掘・整理）成果発表
- ◆ 発表者：整理課 中城遺跡・中城古墳群 植木 貴志 調査員

向田遺跡 柳瀬 彬 調査員

調査課 羽黒遺跡 三浦 裕介 調査員

実穀神田遺跡 内堀 団 調査員

◇ 紙上発表

- つくば市 谷田部陣場西遺跡（萩原 宏季・松田 俊太 調査員）
- つくば市 下河原崎高山古墳群・下河原崎高山遺跡（坂本 勝彦 調査員）
- 小美玉市 峯遺跡（塙 厚宜 調査員）
- 石岡市 田島遺跡（山崎 絵美子 調査員）
- 石岡市 中津川遺跡（山崎 絵美子 調査員）
- 大子町 番城内遺跡（塙 厚宜 調査員）

**公益財団法人茨城県教育財団**

〒310-0911 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2

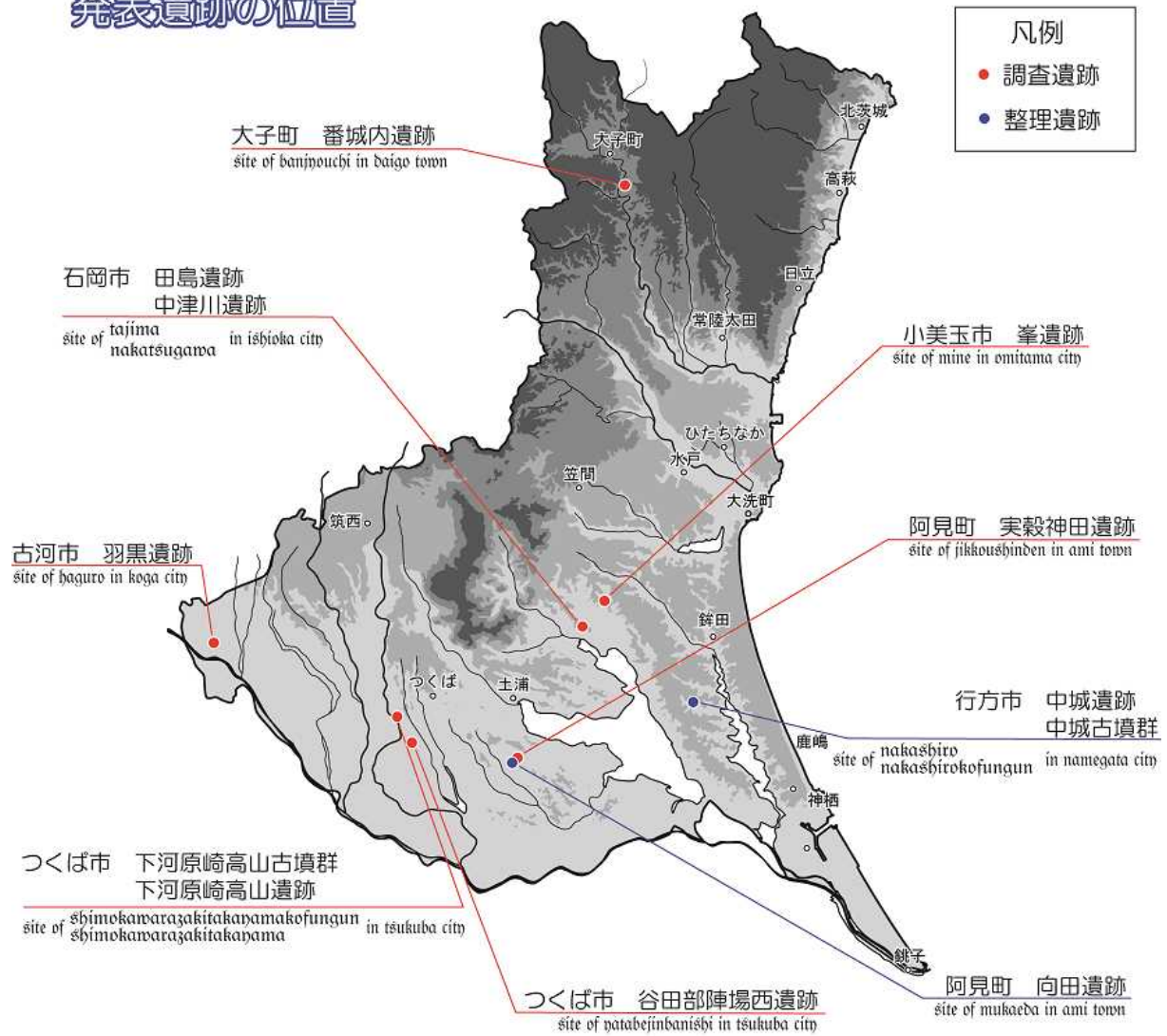
電話 029-225-6587 fax 029-225-6573

## 次 第・目 次

- 9時 15分～ 開会行事
- 9時 20分～ 11時 30分 発表  
＜10時 25分～ 10時 30分 休憩＞
- 11時 30分～ 事務連絡・解散

◆ 発表遺跡の位置	1
◆ 9時 20分～ No.1 「行方市 <small>なかしろいせき</small> 中城遺跡・ <small>なかしろこふんぐん</small> 中城古墳群 － 北浦支流に営まれた弥生・古墳時代の集落と墳墓－」	2
発表者 植木 貴志（整理課）	
◆ 9時 55分～ No.2 「稲敷郡阿見町 <small>むかえだいせき</small> 向田遺跡 － 縄文時代早期の土地利用と古墳時代の集落跡－」	4
発表者 柳瀬 彬（整理課）	
◆ 10時 30分～ No.3 「古河市 <small>はぐろいせき</small> 羽黒遺跡 － 古代の集落跡と中世の方形区画－」	6
発表者 三浦 裕介（調査課）	
◆ 11時 00分～ No.4 「稲敷郡阿見町 <small>じっこくしんでんいせき</small> 実穀神田遺跡 － 当時の姿をとどめた奈良時代の竈－」	8
発表者 内堀 団（調査課）	
◇ 紙上発表 ◇	
「つくば市 <small>やたべじんばにしいせき</small> 谷田部陣場西遺跡」	
萩原 宏季・松田 俊太（調査課）	10
「つくば市 <small>しもかわらぎきたかやまこふんぐん</small> 下河原崎高山古墳群・ <small>しもかわらぎきたかやまいせき</small> 下河原崎高山遺跡」	
坂本 勝彦（調査課）	11
「小美玉市 <small>みねいせき</small> 峯遺跡」	
塙 厚宜（調査課）	12
「石岡市 <small>だしま いせき</small> 田島遺跡」	
山崎 絵美子（調査課）	13
「石岡市 <small>なかつがわいせき</small> 中津川遺跡」	
山崎 絵美子（調査課）	14
「久慈郡大子町 <small>ほんじょうちいせき</small> 番城内遺跡」	
塙 厚宜（調査課）	15
◆ 令和5年度調査遺跡・発掘速報	16
◆ 令和5年度調査・整理遺跡・施設一覧	17

# 発表遺跡の位置



谷田部陣場西遺跡(つくば市)



羽黒遺跡(古河市)

なかしろ いせき なかしろ こふんぐん  
**行方市 中城遺跡・中城古墳群**

— 北浦支流に営まれた弥生・古墳時代の集落と墳墓 —

調査員 植木 貴志

### <調査の概要>

遺跡名称 中城遺跡・中城古墳群（調査面積：5,844㎡）

所在地 茨城県行方市北高岡

調査機関 公益財団法人茨城県教育財団

調査期間 令和3年4月～令和4年3月

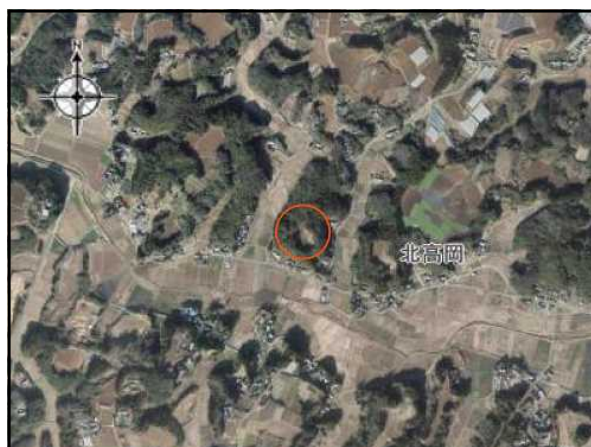
整理期間 令和4年4月～令和5年8月

調査原因 東関東自動車道水戸線（潮来～鉾田）  
建設事業

主な時代 縄文、弥生、古墳、平安、江戸

主な遺構 竪穴建物跡、掘立柱建物跡、古墳、土坑

主な遺物 弥生土器、土師器、須恵器、土製品、  
石製品、石器



遺跡位置図（1/20,000 茨城デジタルマップより作成）

## 1 遺跡の位置

中城遺跡・中城古墳群は、行方市の北東部、北浦に注ぐ山田川左岸に面した標高28～35mの台地上から斜面部にかけて位置しています。



調査区遠景（北西から）

## 2 注目される遺構

弥生時代の竪穴建物跡37棟、古墳時代の竪穴建物跡25棟などを確認しました。当遺跡は、弥生時代中期後葉から古墳時代中期中葉にかけて、北浦に流れ込む山田川流域を代表する拠点集落跡と考えられます。また、7基からなる当古墳群の墳墓は、中期と終末期に築造されたものです。

## 3 注目される遺物

弥生時代の遺物としては、県南地域で主に出土する弥生土器のほか、福島県や千葉県の特徴をもつ弥生土器も出土しています。また、繊維を紡ぐ紡錘車や伐採に使用した大型蛤刃石斧、中部地方で多く出土している有肩扇状石器も出土しています。古墳時代の遺物としては、中期に築造された円墳の周溝から、初期の須恵器高坏などが出土しています。

## 4 整理の成果

### (1) 弥生土器と石器について

弥生時代中期後半から後期後半の土器が出土しています。土器の特徴として、東関東から南東北の特徴をもつ土器が出土しています。特に後期後半の十王台式土器は胎土の違いから、当遺跡に持ち込まれたものと考えられます。石器では、太型蛤刃石斧、有肩扇状石器、敲石、砥石などが出土しています。いずれも行方地域では獲得できない石材で製作されていることから、県北部や福島県南部、栃木県方面からもたらされたものと考えられます。

### (2) 古墳時代中期の墳墓について

古墳時代の集落は、前期から中期中葉まで営まれています。そして、集落の廃絶とほぼ同時期に円墳からなる墳墓が築造されたことが確認できました。これらの墳墓は台地端部に位置し、規模の大きい墳墓は、10～20m間隔で築造されています。第6号墳の周溝からは須恵器高坏と土師器埴が、他の古墳からは土師器椀や甕が出土しています。出土遺物から中期の墳墓は、短期間に築造されたことが判明しました。

### (3) 古墳時代終末期の墳墓について

7世紀前半の前方後円墳を2基確認しました。墳丘の中心から外れた場所に埋葬施設を構築する常総型の墳墓で、周溝が前方部の一部に巡らないのが特徴です。第3・5号墳の埋葬施設は、筑波山から産出する片岩の板石を用いた箱式石棺でしたが、徹底的に破壊され、副葬品とともに周溝内に廃棄されていました。ただ、石棺材が細かく打ち砕かれていることから、単なる盗掘ではなかった可能性が考えられます。第3号墳の周溝内からは、勾玉、切子玉、ガラス玉、鉄鏃、馬具、東海地方の湖西産の長頸瓶と横瓶が出土しました。



写真 左：台地上に築造された墳墓群（北西から）

右上：第3号墳出土の瑠璃製勾玉

右下：第32号竪穴建物跡出土の太型蛤刃石斧と砥石

# 稲敷郡阿見町 向田遺跡

## — 縄文時代早期の土地利用と古墳時代の集落跡 —

次席調査員 柳瀬 彬

### <調査の概要>

遺跡名称	向田遺跡（調査面積：10,165㎡）
所在地	茨城県稲敷郡阿見町小池
調査機関	公益財団法人茨城県教育財団
調査期間	平成28年4月～5月、平成30年10月～ 平成31年1月
整理期間	令和5年6月～9月
調査原因	主要地方道土浦竜ヶ崎線バイパス整備事業
主な時代	縄文、古墳
主な遺構	竪穴建物跡、陥し穴、遺物包含層、不明遺構
主な遺物	縄文土器、土師器、須恵器、土製品、 金属製品



遺跡位置図（1/20,000 茨城デジタルマップより作成）

### 1 遺跡の位置

向田遺跡は、稲敷郡阿見町の南西部、乙戸川右岸の標高約22mの台地縁辺部に位置しています。

### 2 注目される遺構

古墳時代の竪穴建物跡のほか、縄文時代早期の遺物包含層や不明遺構が注目されます。遺物包含層は、埋没谷の中に形成されており、縄文土器片が比較的まとまって出土しています。遺物包含層のある埋没谷に隣接した不明遺構は、平面形は楕円形で付属施設がないため、どのような用途であったのか明確にすることはできませんでした。不明遺構から出土した縄文土器片は、遺物包含層から出土した縄文土器片と同時期のものであることから、遺物包含層と不明遺構には何らかの関連があると考えられます。

### 3 注目される遺物

縄文時代の遺物包含層と不明遺構から、早期前葉（約9,000年前）の土器が出土しました。古墳時代の竪穴建物跡からは、土師器の坏・椀・甕・甑・ミニチュア土器・手捏土器、須恵器の<sup>はそう</sup> 甗・甕、金属製品の鉄鏃などが出土しました。

## 4 整理の成果

### (1) 遺物包含層と不明遺構から出土した縄文土器について

口縁部が肥厚して外反し、そこに1列から2列の縄文が施されているものが多く、また器面に施された文様の特徴から、早期前葉の井草式土器と考えられます。県内では出土例が少ないため、貴重な資料となりました。土器片は接合するものが多く、出土範囲も狭いことから、壊れて不要となった土器片を埋没谷や窪地に廃棄したものと考えられます。周囲からは陥し穴も確認されており、狩り場や小規模な居住地として土地利用されていたことがわかりました。

### (2) 古墳時代の竪穴建物跡と出土遺物について

古墳時代の竪穴建物跡10棟はすべて後期のもので、その覆土に多量の焼土を含むものが4棟、床面から焼土や炭化物が出土したものが9棟ありました。このことから、廃絶時に建物を焼却した可能性があります。また、マツリに用いられたと考えられる手捏土器や土製品（勾玉・土玉・管玉）などが出土したことから、建物廃絶時の焼却行為と合わせて地鎮的なマツリが執り行われたと推測できます。また、6世紀後半の第3号竪穴建物跡からは、鉄鏝の一種である雁股鏝が出土しました。古墳の副葬品として出土する例はありますが、集落跡からの出土は稀で、県内では最古級の資料となります。さらに、第4号竪穴建物跡の竈付近からは、土師器の甕と甔が出土しました。それらには組み合わせて使用した痕跡が認められ、道具のセット関係を把握できました。



縄文時代早期前葉の井草式土器



第5号竪穴建物跡出土の甕と手捏土器



第3号竪穴建物跡出土の雁股鏝



組み合わせて使用された甕と甔

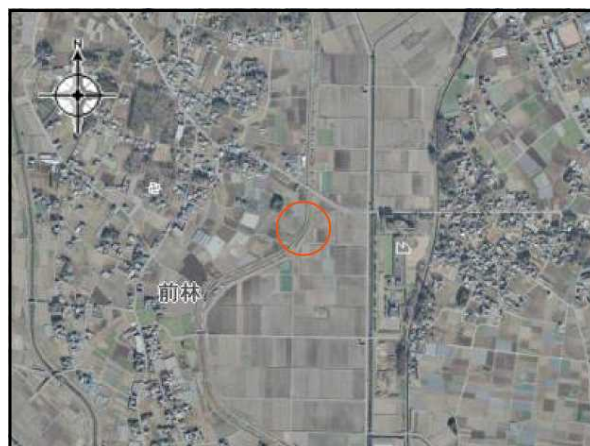
# 古河市 はぐろいせき 羽黒遺跡

— 古代の集落跡と中世の方形区画 —

首席調査員 三浦 裕介

## <調査の概要>

遺跡名称	羽黒遺跡（調査面積：2,430㎡）
所在地	茨城県古河市大字前林字羽黒
調査機関	公益財団法人茨城県教育財団
調査期間	令和5年4月～8月
調査原因	一級河川女沼川河川改修事業
主な時代	縄文、古墳、奈良、平安、室町
主な遺構	竪穴建物跡、掘立柱建物跡、堀跡
主な遺物	縄文土器、土師器、須恵器、灰釉陶器、 土師質土器、陶器、金属製品



遺跡位置図（1/20,000 茨城デジタルマップより作成）

## 1 遺跡の位置

羽黒遺跡は、古河市の南東部、女沼川と向堀川に挟まれた猿島台地に位置しています。現在、遺跡周辺は、干拓・耕地整備事業によって田畑として利用されています。今回の調査は第4回目にあたり、当財団が平成12・13・16年度にも調査しています。

## 2 古代の集落跡

古墳時代から平安時代にかけての竪穴建物跡29棟（古墳14、奈良7、平安5、不明3）を確認しました。このうち17棟には竈が付設されており、竈の架構材や補強材として土師器や須恵器の甕を利用した竈が6か所、竈支脚には、砥石や逆さに据えた土師器の小甕、土師器片を積み重ねたものなどが見られました。



竈の横架材に利用された土師器甕



竈袖部に埋め込まれた土師器甕

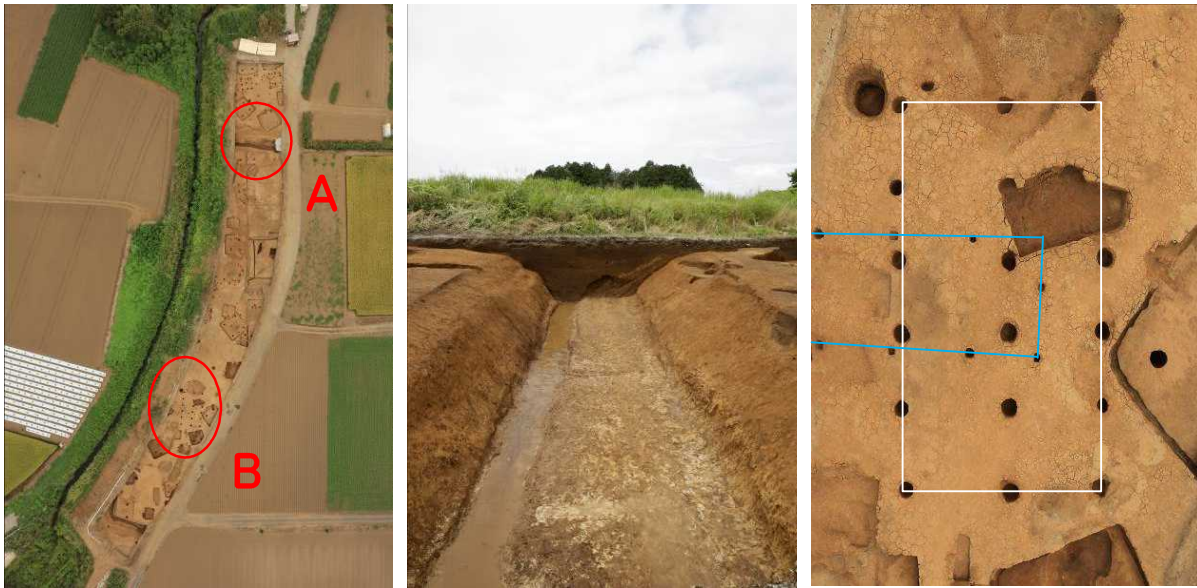


### 3 中世の方形区画

室町時代の遺構として、調査区の南北で2条の堀跡を確認しました。堀跡の規模や形状は同一で、また、南側の堀跡がほぼ直角に北へ折れ曲がっていることから、これらの堀跡は一辺約100mの方形に巡る堀跡で、中世の方形館跡と考えられます。

堀はいわゆる箱堀と言われるものです。断面形が逆台形で、底面はほぼ平らになっています。区画内側の壁は急角度、区画外側の壁は比較的緩やかな立ち上がりとなっています。堀の上端約8m、下端約4m、深さ約1.8mと大変立派です。

土層観察の結果、3回程度の改築（掘り直し）が認められました。また、区画内側からは、室町時代の掘立柱建物跡3棟や地下式坑2基を確認し、館跡との関連がうかがえます。



調査区全景（鉛直から）

A：第16号溝跡

B：掘立柱建物跡と地下式坑

### 4 調査の成果

今回の調査では、古墳時代から平安時代にかけての竪穴建物跡や、室町時代の堀跡・掘立柱建物跡・地下式坑などを確認しました。

古墳時代以降、集落が断続的に営まれており、奈良・平安時代の竪穴建物跡からは、文字の書かれた墨書土器や東海地方で作られた灰釉陶器、役人の腰帯具（鉸具）などが出土しています。こうしたことは読み書きができる識字層や役人などの存在を彷彿とさせます。室町時代の堀跡からは、常滑焼や志野焼の陶器が出土しました。

今回の調査では、方形区画の西側一部を確認したに過ぎず、区画内の建物の種類や構成は不明です。なお、古河市による隣接地の調査でも、第16号溝跡につながる堀跡が確認されています。県内における中世の方形館（城館）跡の調査事例としては、水戸市白石遺跡、土浦市神明遺跡、つくば市島名前野東遺跡・小泉館跡、龍ヶ崎市屋代B遺跡などが知られていますが、まだまだ調査事例が少なく、羽黒遺跡での方形館跡の発見はとても重要です。

# 稲敷郡阿見町 実穀神田遺跡

— 当時の姿をとどめた奈良時代の竈 —  
次席調査員 内堀 団

## <調査の概要>

遺跡名称	実穀神田遺跡（調査面積：11,095㎡）
所在地	茨城県稲敷郡阿見町実穀
調査機関	公益財団法人茨城県教育財団
調査期間	令和5年4月～令和5年9月
調査原因	主要地方道土浦稲敷線バイパス整備事業
主な時代	縄文、古墳、奈良、平安
主な遺構	竪穴建物跡、掘立柱建物跡、井戸跡、 溝跡、土坑
主な遺物	縄文土器、土師器、須恵器、土製品、 石器、石製品、金属製品



遺跡位置図（1/20,000 茨城デジタルマップより作成）

## 1 遺跡の位置

実穀神田遺跡は、霞ヶ浦に注ぐ小野川支流の一つである乙戸川左岸の標高約24mの台地上に位置しています。当地は、古代には常陸国信太郡に属していたと考えられています。周辺の遺跡としては、乙戸川の対岸に向田遺跡が立地しています。調査前は山林で、令和4年11月から令和5年9月まで調査を実施しました。



遺跡遠景（南東から）

## 2 竪穴建物跡と竈の概要

2年度にわたる調査で、多数の竪穴建物跡を確認しました。竪穴建物跡の時期は、出土した遺物から古墳時代7棟、奈良時代22棟、平安時代1棟です。これらの竪穴建物跡には、煮炊きするための竈が設けられていますが、発掘時には壊れた状態で発見されることが一般的です。今回の調査で確認した竈もほとんどが壊れていました。

そのような中、今回の調査では竈の遺存状況が比較的良好な事例にも恵まれました。以下、時代別に紹介します。古墳時代の第38号竪穴建物跡からは、トンネル状に延びる長い

煙道部をもつ竈を確認しました。長い煙道部をもつ竈の建物跡は本跡だけで、土師器甕、須恵器甕などが出土しました。時期は出土した土器から7世紀前葉から中葉と推測されます。

奈良時代の第14号竈穴建物跡からは、最も良好な遺存状況の竈を確認しました。本跡は、上屋などが焼失しており、床面から多数の炭化材が出土しました。この上屋などの焼失によって竈の外表部分が直接火を受けて焼き締まった結果、竈の自然崩壊を防ぎ、当時の竈の姿を良好にとどめたと推測されます。竈の断ち割り調査によって、竈の外表部は、厚さ約2cmのスサ入り粘土で塗り固められていることがわかりました。

平安時代の第43号竈穴建物跡からは、竈の内部から2個体の土師器甕のほか、土師器坏や皿が出土しました。火床面には小型の土師器甕が逆さに据え置かれており、二次的に火を受けて脆くなっていることから竈に掛けた甕をささえる支脚として転用されたものと推測されます。

### 3 調査の成果

奈良時代の第14号竈穴建物跡の竈は、上屋などが焼失したことによって焼き締まり、当時の姿をとどめた稀有な竈です。竈穴建物跡や竈の研究を進める上で、とても貴重な事例を確認することができました。



古墳時代の竈（第38号竈穴建物跡）



奈良時代の竈（第14号竈穴建物跡）



平安時代の竈（第43号竈穴建物跡）

第5回 令和5年度（公財）茨城県教育財団 調査成果発表会『茨城の調査遺跡2023』

<紙上発表>

## つくば市 や た べ じ ん ば に し い せ き 谷田部陣場西遺跡

— 縄文時代中期の大規模集落跡 —

調査員 萩原 宏季・松田 俊太

### <調査の概要>

遺跡名称 谷田部陣場西遺跡（調査面積：38,106㎡）

所在地 茨城県つくば市陣場

調査機関 公益財団法人茨城県教育財団

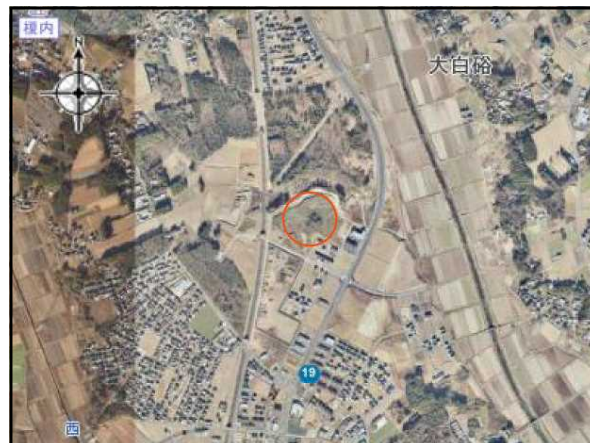
調査期間 令和5年4月～令和6年3月

調査原因 島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業

主な時代 縄文、古墳

主な遺構 竪穴建物跡、土坑、溝跡、柱穴列、炉跡、  
遺物包含層

主な遺物 縄文土器、土師器、須恵器、石器



遺跡位置図（1/20,000 茨城デジタルマップより作成）

### <調査の成果>

谷田部陣場西遺跡は、つくば市南西部、谷田川と西谷田川に挟まれた標高約22mの台地縁辺部に位置しています。今回の調査では、縄文時代と古墳時代の集落跡を確認しました。特に縄文時代の遺構は、ほとんどが中期前半の竪穴建物跡と土坑です。土坑は堅果類の貯蔵施設と考えられ、現在1,500基以上を確認しています。竪穴建物跡は円形で中央に炉をもつものや有段式で炉をもたないものが見られます。出土した縄文土器の中には、中部地方・東北地方の影響を受けたものも出土しており、他地域との盛んな交流が想像できます。

当遺跡は、竪穴建物や土坑の分布状況から、長い時間をかけて環状化の進んだ大規模な集落跡で、県内屈指の縄文時代の遺跡であると言えます。当遺跡から谷を挟んで北側には、縄文時代中期後半から後期にかけての島名境松遺跡が位置しています。時期的に当遺跡から島名境松遺跡へと集落が移動していったことが推測されます。今後、両遺跡を含めた縄文時代中期から後期の集落変遷を細かく検討していきます。



環状化した縄文時代中期の集落跡（東から）



中部地方の文様を施した縄文土器

第5回 令和5年度（公財）茨城県教育財団 調査成果発表会『茨城の調査遺跡2023』

<紙上発表>

## つくば市 下河原崎高山古墳群・下河原崎高山遺跡

### － 周溝調査から見た第18号墳の全貌 －

首席調査員兼班長 坂本 勝彦

#### <調査の概要>

遺跡名称 下河原崎高山古墳群・下河原崎高山遺跡  
(調査面積：733㎡)

所在地 茨城県つくば市下河原崎字三夜山

調査機関 公益財団法人茨城県教育財団

調査期間 令和5年5月

調査原因 上河原崎・中西特定土地区画整理事業

主な時代 縄文、古墳、平安

主な遺構 竪穴建物跡、古墳、火葬墓、土坑

主な遺物 縄文土器、土師器、須恵器



遺跡位置図 (1/20,000 茨城デジタルマップより作成)

#### <調査の成果>

下河原崎高山古墳群・下河原崎高山遺跡は、つくば市の南西部、西谷田川と支川に開析された標高16～23mの斜面部に位置しています。同一の台地上では、下河原崎谷中台遺跡、元宮本前山遺跡など、古墳時代中期から後期にかけての遺跡が複数分布しています。平成28年度の調査では、当古墳群の第5号墳（前方後円墳）から未盗掘の箱式石棺と人骨などが発見され、全国的に話題となりました。今年度の調査では、第18号墳の周溝の西辺から南辺東側を確認しました。その結果、第18号墳は北辺13.8m、東辺14.5m、南辺11.7m、西辺14.5mのやや南北に長い方墳であることが判明しました。第18号墳の時期は、7世紀後葉と考えられま

す。また、古墳の他に平安時代の竪穴建物跡や火葬墓も確認しました。

当遺跡は、縄文・古墳・平安時代の各時代で、断続的に集落や墓域を形成していたことが判明しました。



第18号墳の周溝調査 (写真・右図黒塗り部分)

第5回 令和5年度（公財）茨城県教育財団 調査成果発表会『茨城の調査遺跡2023』

<紙上発表>

# 小美玉市 みねいせき 峯遺跡

— 園部川をのぞむ高台の遺跡 —

首席調査員兼班長 塙 厚宜

## <調査の概要>

遺跡名称 峯遺跡（調査面積：2,864㎡）  
所在地 茨城県小美玉市宮田  
調査機関 公益財団法人茨城県教育財団  
調査期間 令和5年9月～11月  
調査原因 主要地方道玉里水戸線道路整備事業  
主な時代 縄文、古墳、中世  
主な遺構 竪穴建物跡、溝跡、竪堀跡、帯曲輪、  
切岸、遺物包含層  
主な遺物 縄文土器、土師器、須恵器、土師質土器



遺跡位置図（1/20,000 茨城デジタルマップより作成）

## <調査の成果>

峯遺跡は、小美玉市中央部、園部川左岸の標高22mの台地上と斜面部に位置しています。今回の調査では、台地上からは、縄文時代早期の遺物包含層2か所と古墳時代中期の竪穴建物跡2棟などを確認しました。また、斜面部からは、中世の城館跡の帯曲輪1か所、竪堀跡1条、切岸1か所を確認しました。

調査の結果、台地上では縄文時代から古墳時代にかけて断続的に集落が営まれていたことがわかりました。中世になると斜面部に帯曲輪や竪堀、切岸が造成され、城館として機能していたことがうかがえます。当遺跡西側で隣接する宮田館跡からは、平成23年度の調査で櫓と考えられる掘立柱建物跡や薬研堀跡、土塁などが発見されており、当遺跡との関連が強く想定されます。



園部川をのぞむ台地上の遺跡（南西から）



古墳時代中期の竪穴建物跡

第5回 令和5年度（公財）茨城県教育財団 調査成果発表会『茨城の調査遺跡2023』

<紙上発表>

# 石岡市 田島遺跡

— 川辺に営まれた古代の集落跡 —

次席調査員 山崎絵美子

## <調査の概要>

遺跡名称 田島遺跡（調査面積：237㎡）  
所在地 茨城県石岡市石岡字田島  
調査機関 公益財団法人茨城県教育財団  
調査期間 令和5年8月～9月  
調査原因 一般国道6号千代田石岡バイパス新設事業  
主な時代 平安、中世  
主な遺構 竪穴建物跡、溝跡、粘土採掘坑  
主な遺物 土師器、須恵器、土製品、金属製品



遺跡位置図（1/10,000 茨城デジタルマップより作成）

## <調査の成果>

田島遺跡は、石岡市の南東部、恋瀬川左岸の標高約13mの河岸段丘上に位置しています。平成19年度の調査では、古代の竪穴建物跡108棟、掘立柱建物跡4棟などが発見され、漁網のおもり（土玉）が多量に出土したことから、恋瀬川での漁撈活動が盛んに行われていたと推測されています。

今年度の調査では、平安時代の竪穴建物跡5棟、中世の溝跡1条などを確認しました。一般的に古代の竪穴建物跡の竈は、北壁に付設されることが多い中、今回の調査で確認した5棟の内、4棟が西壁に付設されており、当遺跡の特徴の一つと言えます。



調査区全景（東から）



平安時代の竪穴建物跡

第5回 令和5年度（公財）茨城県教育財団 調査成果発表会『茨城の調査遺跡2023』

<紙上発表>

# 石岡市 なかつがわいせき 中津川遺跡

— 台地上に残された縄文時代の集落跡と貯蔵坑 —

次席調査員 あな 山崎絵美子

## <調査の概要>

遺跡名称 中津川遺跡（調査面積：508㎡）  
所在地 茨城県石岡市中津川字平足塚  
調査機関 公益財団法人茨城県教育財団  
調査期間 令和5年8月～9月  
調査原因 一般国道6号千代田石岡バイパス新設事業  
主な時代 縄文、弥生  
主な遺構 竪穴建物跡、土坑  
主な遺物 縄文土器、弥生土器、土製品、石器



遺跡位置図（1/10,000 茨城デジタルマップより作成）

## <調査の成果>

中津川遺跡は、石岡市の南東部、恋瀬川左岸の標高約15mの台地上に位置しています。これまで断続的に調査が実施され、縄文時代と弥生時代の集落跡をはじめ、平安時代の墓域や室町時代の屋敷跡など、各時代に渡って盛んに土地利用されていたことが判明しています。

今年度の調査では、縄文時代中期の竪穴建物跡1棟と土坑17基などを確認しました。土坑の形状は円筒状のもの、空間の上部が狭く、下部になるにつれて広がるフラスコ状のものがあります。土坑の用途は採集した堅果類の貯蔵施設と考えられます。また、縄文土器片や土器片錘（縄文土器片を再利用した漁網のおもり）、クリなどを磨り潰す磨石なども出土し、漁撈や採集活動にいそしむ縄文人の姿が見えてきます。



縄文時代の竪穴建物跡



フラスコ状の貯蔵坑



第5回 令和5年度（公財）茨城県教育財団 調査成果発表会『茨城の調査遺跡2023』

<紙上発表>

# 久慈郡大子町 番城内遺跡

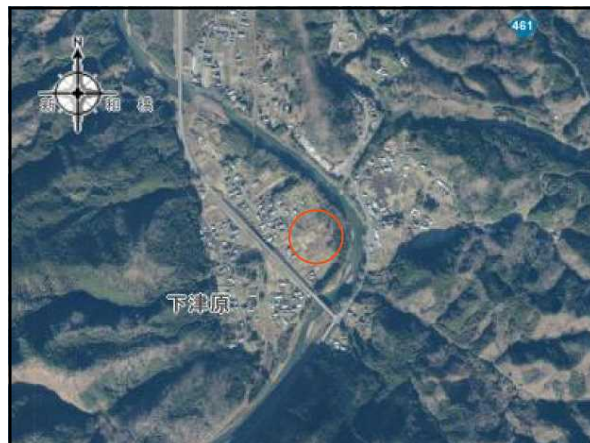
ばんじょううち いせき

— 洪水砂の下に眠る古代の遺跡 —

首席調査員兼班長 塙 厚宜

## <調査の概要>

遺跡名称 番城内遺跡（調査面積：843㎡）  
所在地 茨城県久慈郡大子町下津原  
調査機関 公益財団法人茨城県教育財団  
調査期間 令和5年10月～11月  
調査原因 久慈川緊急治水対策プロジェクト事業  
主な時代 平安、中世、近世  
主な遺構 竪穴建物跡、掘立柱建物跡、土坑、  
方形竪穴遺構  
主な遺物 土師器、陶磁器、石器、鉄滓



遺跡位置図（1/20,000 茨城デジタルマップより作成）

## <調査の成果>

番城内遺跡は、大子町南部、久慈川右岸の標高約90mの氾濫平野から台地上に位置しています。今回の調査では、久慈川の洪水砂（氾濫によって堆積した砂）が3層にわたって堆積していることが判明しました。

上層の洪水砂の下からは、陶磁器や鉄生産にかかわる鉄滓が出土し、近世の生活痕跡と考えられます。中層の洪水砂の下からは、掘立柱建物跡や方形竪穴遺構が確認でき、中世の生活痕跡と考えられます。下層の洪水砂の下からは、平安時代の竪穴建物跡4棟を確認しました。これらの竪穴建物跡は、久慈川から遠い標高のやや高い地点に分布していることから、洪水などの水害の少ない場所を選んで建物を構築したと考えられます。古代以降、久慈川の恵みと脅威を受け入れ、たくましく生活を続けてきたことがうかがえます。



久慈川左岸にひろがる遺跡（南から）



平安時代の竪穴建物跡

## 令和5年度調査遺跡・発掘速報



土浦市 中道南遺跡（第16号竪穴建物跡） 奈良時代の竪穴建物跡



牛久市 鳳原遺跡（第1号塚） 地元で鳥海弥三郎の墓と伝えられる塚の調査

# 令和5年度 調査・整理遺跡・施設一覧



公益財団法人茨城県教育財団ホームページ  
発掘情報いばらき  
<https://www.ibaraki-maibun.org>



公益財団法人茨城県教育財団X(旧ツイッター)  
<https://twitter.com/maibunkikaku>



公益財団法人 茨城県教育財団 埋文企画管理課  
E-mail: [maibun-kikaku@zaihon.ibk.ed.jp](mailto:maibun-kikaku@zaihon.ibk.ed.jp)